

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：3/19～3/23

・ 3/19(月)

森友学園問題、文科省と前川前次官、ロシア大統領選挙、北朝鮮問題、韓国の李明元博大統領などについて報じられました。例示されたトピックについて検証を行ったところ、文科省と前川前次官については放送法第四条に照らして問題のある箇所が見られました。また、森友学園問題については検証者の所感を記しました。

・ 3/20(火)

森友学園問題、文科省と前川前次官、中国全人代、和田政宗議員の質問、年金再委託問題などについて報じられました。例示されたトピックについて検証を行ったところ、和田政宗議員の質問については放送法第四条に照らしてやや不十分な点がありました。また、文科省と前川前次官については放送法第四条に照らして問題のあるものでした。加えて、文科省と前川前次官についての報道の中では印象操作の疑いのあるシーンがありました。森友学園問題および年金再委託問題については検証者の所感を記しました。

・ 3/21(水)

森友問題、前川氏と文科省、米朝首脳会談などについて報じられました。例示されたトピックについて検証を行ったところ、森友問題、前川氏と文科省については放送法第四条に照らして問題だと考えられる箇所が見られました。加えて、森友問題については印象操作の疑いのあるシーンも見られました。また、スタジオでのコメントについて検証者の所感を記しました。

・ 3/22(木)

自民党憲法 9 条改憲案、国際特許出願ランキング、森友文書問題、「授業介入」問題などについて報じられました。例示されたトピックについて検証を行ったところ、自民党憲法 9 条改憲案については放送法第四条に照らして問題だと考えられるシーンが見られました。

・ 3/23(金)

森友学園問題、トランプ大統領の政策と人事、年金再委託問題、裁量労働制などについて報じられました。例示されたトピックについて検証を行ったところ、放送法四條の観点から直ちに問題とされる箇所は見られませんでした。なお、トランプ大統領の政策と人事については印象操作の点から一部不親切なシーンが見られました。また、森友学園問題については検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月19日															
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙																	
検証テーマ：森友学園問題、文科省と前川前次官、ロシア大統領選挙、北朝鮮問題、韓国の李明博大統領																	
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題 ・文科省と前川前次官 ・貴乃花部屋の貴公俊が付き人に暴行 ・新型出生前診断、始まってから5年、診断を受けた妊婦のその後 ・48年前ぶりに太陽の塔の内部公開、石原裕次郎と岡本太郎トークの幻のフィルム ・ロシア大統領選挙 ・北朝鮮問題 ・ながらスマホ運転、求刑を上回る実刑判決 ・日本年金機構の委託業者が契約に反して再委託 ・栃木県那須町の雪崩事故、引率教諭に懲戒処分 ・松本智津夫死刑囚の今 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・韓国、李明博大統領に逮捕状 																	
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨																	
<p>・森友学園問題→結論：今回は問題なし</p> <p>森友問題について報じられた。今回のトピックでは経緯の説明、野党の追求、与党による質疑、スタジオでの論評の大きく4つのポイントがあった。このトピックについてあてられた時間は458秒で、これらのポイントについての時間配分及び比率は以下の通りである。</p>																	
<table border="1"> <caption>森友問題に関するトピックの時間配分</caption> <thead> <tr> <th>トピック</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経緯説明</td> <td>168</td> <td>37%</td> </tr> <tr> <td>野党</td> <td>147</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>与党</td> <td>71</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>スタジオでの論評</td> <td>72</td> <td>16%</td> </tr> </tbody> </table>			トピック	時間 (秒)	比率 (%)	経緯説明	168	37%	野党	147	32%	与党	71	15%	スタジオでの論評	72	16%
トピック	時間 (秒)	比率 (%)															
経緯説明	168	37%															
野党	147	32%															
与党	71	15%															
スタジオでの論評	72	16%															
<p>経緯説明では昭恵夫人の関与の有無、そして改竄の最終的な責任が誰にあるのかということが国会審議の焦点</p>																	

となったこと、これまでの森友問題の経緯や改竄前の文書や財務省のヒアリングについてが取り上げられていた。

野党による質疑では共産党の辰巳孝太郎参院議員の「ご自身には不都合な真実が明らかになるかもしれませんが、ご自身の発言がきっかけとなってこの改竄が始まったかどうかを明らかにする必要があるのではないですか。」という質問に対して安倍総理が「書き換え前の文書でも、私や私の妻が国有地の払い下げや学校の認可に関与した事実はなく、私や私の妻が関わったこと人はならないのは明らかであります。」と答えるシーンや共産党の小池晃参院議員の質疑での以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレーション「しかし、野党はこうした出来事がわざわざ記載されていることに意味があると指摘します。」

小池晃(共産党参院議員)「なんでそもそも決裁文書に安倍昭恵さんがでてくるのかなんですよ。なんで国会議員でもない安倍昭恵さんの動向が決裁文書に記載されているんですか。」

委員長「太田理財局長。」

太田充(財務省理財局長)「それは基本的に、総理夫人だということで、ということだと思います」

委員長「小池くん。」

小池晃「重大な発言ですよ、重大な発言ですよ。総理夫人ですよ、まさに国会議員以上に配慮しなきゃいけない存在なんですよ。」

また、このシーンの直後に小池晃参院議員が「それこそ、恐れ入りました、と対応したと、何笑っているんですか、総理、笑っている場合ではないと思いますよこれはね。少なくとも財務省がそう受け取った、そう考えたとしても不思議ではないと思います。」という発言をするシーンが取り上げられた。加えて民進党の大野元裕参院議員による質疑では以下に朱記したシーンが取り上げられていた。

大野元裕(民進党参院議員)「12日、財務大臣は記者に対して最終責任者は佐川前局長だというふうにお答えになっておられますが今もそういうご認識ですか。」

麻生財務大臣「佐川前長官の関与の度合いは大きかったのではないかと、そう応えたと記憶しておりますけど、違います?」

大野元裕「佐川前局長が最終責任者であったという、その認識、かつての答弁については撤回されるということでしょうか?」

麻生財務大臣「今の段階では佐川前長官が最終責任になりうる可能性が大きいと思ったので、佐川前長官の関与の度合いが大きいと申し上げたのだと思います。」

ナレーション「佐川氏の責任は極めて大きいとしたものの最終責任者と断定することは避けました。」

与党による質疑では、冒頭での安倍総理の「決裁文書の書き換えについて私は全く指示しておりませんし、そもそも理財局内や財務局内の決裁文書など、私はその存在すらも知りません。指示のしようがないわけでありませぬ。」という発言が取り上げられた他、自民党の和田政宗参院議員による質疑で以下に朱記したシーンが取り上げられた。

和田政宗(自民党参院議員)「財務省は書き換えの事実を隠し続けており、官邸や自民党がこじ開けなければ書き換えの事実は闇に葬られていたかもしれません。これは言語道断です。」

ナレーション「追求の矛先は財務省に向かいます。」

和田政宗「まさかとは思いますが、太田理財局長が民主党政権時代の野田総理の秘書官を務めておられて、増税派だから、アベノミクスを潰すために、安倍政権を貶めるために、意図的に変な答弁をしているんじゃないかと。」

ないんですか、どうですか。」

太田充「私は公務員としてお仕えした方に一生懸命お仕えするのが仕事なので、流石にいくらなんでもそんなつもりは全くありません、それはいくらなんでも、それはいくら何でもご容赦ください。」

スタジオでの論評では以下に朱記したやり取りが繰り返されていた。

駒田健吾「この週末に行われた世論調査の内閣の支持率をご覧いただきたいのですが、いずれも支持率が前回の調査に比べまして、10ポイントほど大幅に下落しているんですね、不支持を大きく下回っています。」

星浩「自民党議員に聞いてみるとですね、この数字を見て愕然としたというんですね。支持が下がったこともさることながら不支持が高いんですね、小選挙区制のもとで、この不支持の勢力が一本化すれば支持の政府を上回ることでですから、自民党の惨敗に繋がりがねないということでみんなピリピリしていますね。」

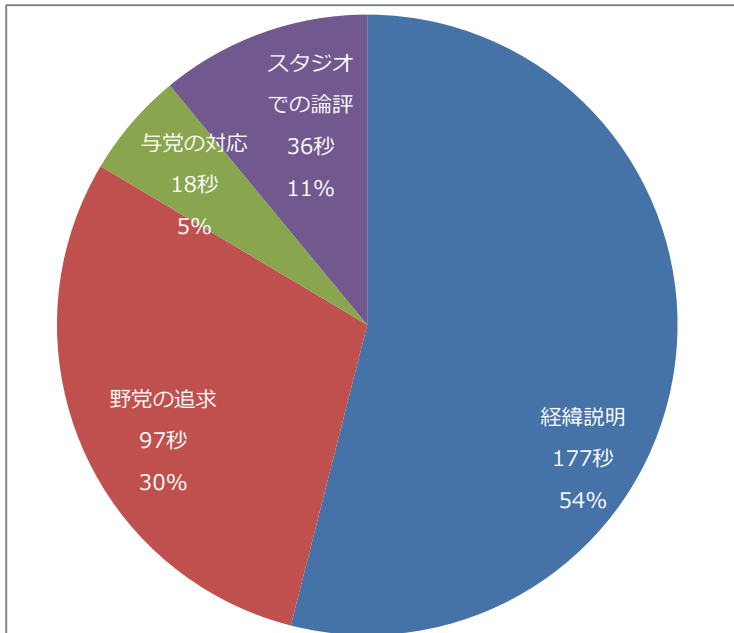
雨宮塔子「そして昭恵夫人の国会招致を求める声も三者の調査で六割以上に登っていますね。」

星浩「そうですね、今日の安倍総理の答弁を聞いてもですね、自分や昭恵夫人の関与はなかったと繰り返すんですけれども真相解明に踏み出すということは中々良くその意欲が見えてこないんですね。この世論調査でも安倍総理の真相解明に対する姿勢への批判というのは強くてですね、今のまま安倍総理が真相解明に積極的に踏み出さないとすると国民の批判というのはまだまだ続きそうですね。」

今回は与党の議員による質疑の様子も取り上げられていた。野党の質疑のみならず与党の質疑も取り上げているという点では評価できるものだった。しかし、この与野党の質疑の取り上げ方については森友学園問題を巡る国会審議を取り上げた他の放送日と併せて評価する必要があるだろう。

・文科省と前川前次官：結論→問題あり

前文部科学事務次官の前川喜平氏が中学校で行った授業について文部科学省が学校側に授業内容の詳細を問い合わせたことについて、外部や政治家から文科省にいかなる関与があったのかということについて報じられた。このトピックについてあてられた時間は秒で、主なポイントは経緯説明と野党の追求、与党の対応、スタジオでの論評だった。



経緯説明では昨日の前文部科学事務次官前川喜平氏による「権力による不当な介入。教育基本法が禁じている不当な支配になっちゃいますよ、通常、文部科学省ではしないようなことをしているということは、なんらかその、背後からの政治的な力が働いているんじゃないかなと思わざるを得ないですよね。」という発言が紹介されたほか、文科省の担当者の担当者の「17日、外部から問い合わせがございまして週明けの19日これを承けまして新聞報道を入手いたしましたしてその内容を確認いたしました。」という発言、及びそれに対するナレーションの「前川氏が授業を行ったのは先月16日、翌日の17日、地元紙がこの授業について報じます。そして同日、外部から文科省に対し、この授業について問い合わせがあったのです、問い合わせを受けて文科省が学校側に対し最初の事実確認をしたのは週明け19日のことでした。では、文科省に問い合わせを行った外部とは一体誰なのでしょう。政府関係者は政治家の存在を挙げました。」というナレーションの補足、そして政府関係者の「自民党の文部科学部会に所属する衆議院議員が複数回問い合わせた。」という音声でのコメントが取り上げられていた。

野党の追求では国会質疑での民進党の難波奨二参院議員の「我が国は自由で民主的な社会ですよ、言論統制するようなそんな社会にやっぱりなっていくことは由々しき事態なんですよ。安倍政権の体質そのものが私は今回のこの案件にも現れていると思いますよ、ご反論どうぞ、ご反論。」という質問に対して安倍総理が「今の、問い合わせについてはですね、ご質問については私は事案を承知しておりませんので、お答えのしようがないということでございますが。」という答弁が行われた質疑の様子が報じられた他、野党による文科省へのヒアリングでの以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

今井雅人(希望の党衆院議員)「その外部の人っていうのは政治家ですか」

文科省の担当者「外部の方がどなたかということにつきましてはお答えを差し控えさせていただきたいと思ます。」

今井雅人(希望の党衆院議員)「自民党の衆議院議員と愛知の方と伺っているが本当ですか。」

文科省の担当者「前日も申し上げましたけれどもあくまでも私共の判断として、」

今井雅人「あのね、我々は事実関係を知りたいんで隠蔽をしないでください、隠蔽をしないでください、それを

お答えできないというのはどなたの判断ですか。」

柚木道義(希望の党衆院議員)「大臣ですか、官邸ですか。」

今井雅人「大臣の判断、どなたの判断ですか。」

柚木道義「官邸ですか、付度ですか。」

文科省の担当者「いま、この場に臨んでおります私共の判断でございます。」

今井雅人「これお答えしないと逆に疑われますよ。隠してるということになると影響があったから隠していると思われてしまうので、皆さんそこは全然問題がないのであればその事実関係を説明すればいいじゃないですか。」

スタジオでの論評では以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

雨宮塔子「赤池さんから明日説明があるということで、」

星浩「そうですね。私の聞いた政府関係者も自民党議員から文科省に問い合わせがあったことは間違いないと言っていましたけど、今回文科省と学校側とのやり取り、詳細に公開されているんですね、メールも含めてですね。ですから自民党議員、仮に問い合わせがあるんだったらどういう狙いでどういう問い合わせをしたのかということとをきちんと説明してもらいたいですね、そうすると議員と文科省と学校の言い分が揃うわけですからそれによってどういう事が起きたのか検証できるわけですよ。」

報道の構成としては今回の問い合わせについては否定的な論調だった。文部科学省と例えば、学校業界に持つ許認可権などを背景に OB を巻き込んでの組織的な天下り斡旋が問題とされ、その責任を取る形で前川喜平氏は事務次官を辞任したというのは記憶に新しい。こうした問題を踏まえると、前川氏のいう「権力による不当な介入。教育基本法が禁じている不当な支配になっちゃいますよ、通常、文部科学省ではしないようなことをしているということは、なんらかその、背後からの政治的な力が働いているんじゃないかなと思わざるを得ないですよ。」というコメントについても、何も権力は現役官僚のみの文科省や政治家ということではなく、文科官僚 OB にも権力性があるだとか、そもそも組織的天下り問題で辞任してまだ日の浅い元文科官僚が学校現場に現れること自体が通常は起きないようなことであるからこそ文科省も普段はしないようなことをしているのではないか、といった点については触れられていなかった。そもそも引責辞任した元文科官僚が所管先である学校現場で活動を行うというような今回の事案について先例があるのかどうかも伝えられず、前川氏の言い分を鵜呑みにするような取り上げ方は放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。」という点に照らし合わせると問題があったものだと言えるだろう。

・ロシア大統領選挙：結論→特に問題なし

ロシアの大統領選挙について中央選挙管理委員会によると開票率 99%の段階でプーチン大統領の得票率は 76.69%となり他七人の候補者を大きく引き離し当選が決まったこと、任期は 2024 年までの 6 年間となりプーチン氏は 2000 年の大統領就任以降途中首相を歴任した期間も含め併せて 24 年間ロシアを率いることになるということが報じられた。また、マネージ広場でのプーチン氏の勝利宣言の様子もとりあげられていた。このトピックについてあてられた時間は 58 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

・北朝鮮問題：結論→特に問題なし

北朝鮮の核問題など安全保障を話し合う米朝韓三カ国による会合が明日からフィンランドのヘルシンキで開か

れます。韓国外務省はこの会合に北朝鮮外務省のチェガンイル北米副局長が参加することを明らかにしたことが報じられた。また、ナレ「明日の会合に参加するとされる韓国側のシン氏が米朝首脳会談も議題の一つだと認めたことも伝えられた。このトピックについてあてられた時間は 46 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

・ 韓国の李明博大統領：結論→特に問題なし

在職中に企業などから少なくとも 11 億円の賄賂を受け取るなど、巨額の収賄などの疑いがもたれている韓国の李明博元大統領に対しソウル中央地検は逮捕状を請求したこと、韓国で大統領経験者が刑事責任の追求を受けるのは五人目で今週中にも裁判所が尋問を行い逮捕が妥当かどうか判断することが報じられた。またスタジオでは星キャスターが「大統領経験者がこれだけ相次いで摘発されるとやっぱりちょっと我々隣人としても残念ですよ、政争が激しすぎるのか、それから政治とカネのシステムに問題があるのかちょっと考えてもらいたいですよね。」とコメントしていた。このトピックについてあてられた時間は 57 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

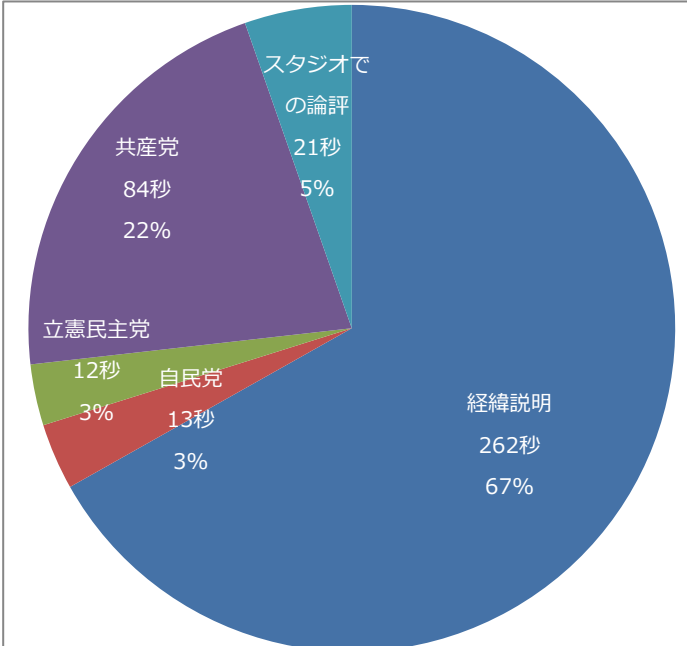
特になし

検証者所感

・ 森友学園問題

そもそも、問題となっている文書は近畿財務局の管財部次長の決裁のものであることはこれまでの質疑の中で明らかになっているとおりである。政策的な議論ではなく、文書についての議論を決裁担当者ではない理財局長に聞くこと自体に違和感を覚える。真相を究明するつもりなら、当時の近畿財務局管財部次長に質問をする必要があるのではないだろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月20日																		
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙																				
検証テーマ：森友学園問題、文科省と前川前次官、中国全人代、和田政宗議員の質問、年金再委託問題																				
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題 ・文部科学省と前川前次官 ・【追跡】少年と学校でのいじめ、 ・中国全人代 ・和田政宗議員の質問 ・アメリカ、Uberの自動運転での事故 ・地下鉄サリン事件から23年 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・年金再委託問題 																				
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題：結論→特に問題は見られず <p>森友学園問題について取り上げられた。このトピックについてあてられた時間は392秒で、今回の報道では経緯の説明、自民党議員の声、立憲民主党の議員の声、共産党による質疑、スタジオでの論評が大きくポイントとして見られた。それぞれのポイントにスポットのあたった時間配分及び比率は以下の通りであった。</p>																				
 <table border="1"> <caption>森友学園問題の報道内容時間配分</caption> <thead> <tr> <th>トピック</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経緯説明</td> <td>262</td> <td>67%</td> </tr> <tr> <td>共産党</td> <td>84</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>スタジオでの論評</td> <td>21</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>立憲民主党</td> <td>12</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>自民党</td> <td>13</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>			トピック	時間 (秒)	比率 (%)	経緯説明	262	67%	共産党	84	22%	スタジオでの論評	21	5%	立憲民主党	12	3%	自民党	13	3%
トピック	時間 (秒)	比率 (%)																		
経緯説明	262	67%																		
共産党	84	22%																		
スタジオでの論評	21	5%																		
立憲民主党	12	3%																		
自民党	13	3%																		
<p>経緯説明では、来週27日に佐川元国税庁長官の証人喚問を実施することが正式に決まったこと、昭恵夫人に</p>																				

も関わりかねない一枚のメモが決裁文書からまるまる削除されていたことが昨日新たに明らかになったこと、このメモについて財務省が削除に気づいていなかったとして昨日慌てて開示したことが伝えられた。また、メモの内容については、森友学園が敷地内から大量のゴミが見つかったと主張し国有地の値引きを求めた際に財務省がどう対応するのか検討した過程が記されているとのことが報じられた。また、国税庁長官を辞任した佐川氏に支払われる退職金がおおよそ 5000 万円であることがわかったこと、手続き上は退職から 1 ヶ月以内に支払われることが義務付けられているが、財務省によると現時点ではまだ支払いは行われていないとのことも報じられた。

自民党議員の声では森山裕国対委員長の「私は佐川さんとは長い付き合いでございますから彼の性格もよくわかっているつもりでおりますが、自分がわかっていることを正直にお答えになると思います。」というコメントが取り上げられた。

立憲民主党の声では辻元清美国対委員長の「ここを入りにですね、安倍昭恵さんや、そして迫田さんや谷さんへと私達はしっかりつなげていって全容解明をしていきたいと。」というコメントが取り上げられた。

共産党の質疑では以下に朱記したやり取りが取り上げられた。なお、経緯説明として計測した箇所が含まれているが、その部分については黒字で記している。

ナレーション「こうした中今日の国会では森友問題に関する野党からの厳しい追求続きました。共産党の辰巳議員はあるメモを入手したとして質問に立ちます。」

辰巳孝太郎(共産党参院議員)「独自に籠池さんが当時書いたメモを入手いたしました。午後より近畿財務局が来園して、不動産鑑定概要が出た、とのこと。」

ナレーション「これが、共産党が入手した籠池被告が書いたというメモ、国有地の貸付交渉の経過が記されています、これまで財務省は事前の価格交渉はしていないとしていますが、メモには指にて賃借料 3400 万円、暗黙の提示、と書かれています。」

辰巳孝太郎「賃借料年間 3400 万円を暗黙の提示と書いてあるんですね、近畿財務局、金額提示しているじゃないですか。」

太田充(財務省理財局長)「どうも籠池理事長がそういうふうに使われた、ということを追っかけているようにしか聞こえないのですが」

ナレ「辰巳議員は国有地の貸付料を事前に提示していたことが疑われると指摘しましたが、財務省側はメモの内容の信憑性が疑われると取り合いません。」

麻生太郎財務相「少なくともこの種の交渉で事前に価格というものを提示するのは通常考えられませんので」

辰巳孝太郎「考えられないことが怒っているんですよ、貸付のときからずっと、これが森友の事件なんですね。」

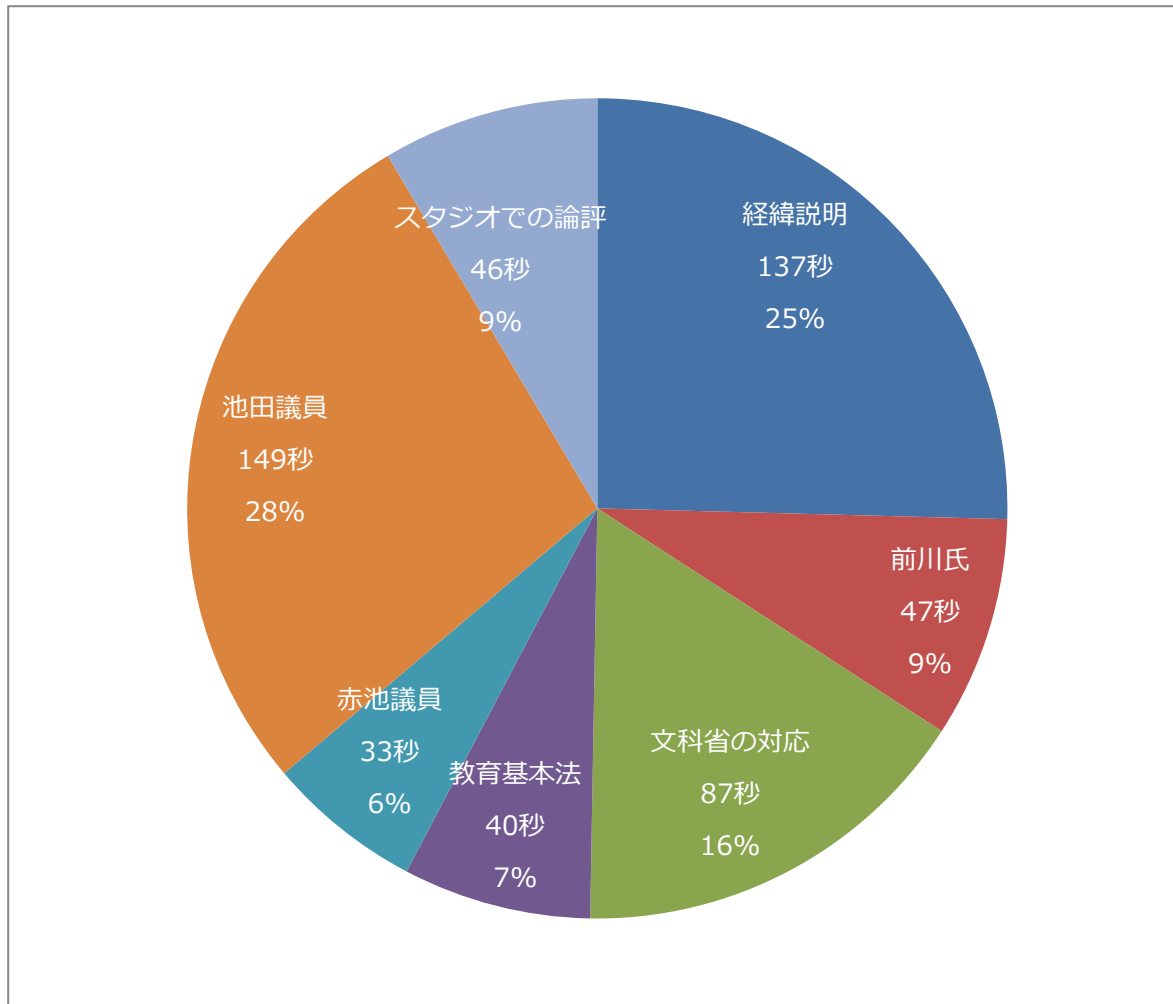
スタジオでは雨宮キャスターの「ついに佐川氏の証人喚問が決まりましたね。」というコメントに対して、星キャスターが「そうですね、この喚問を最終的に決めたのは二階幹事長ですが昭恵夫人の喚問をどうするかについても二階氏次第ということでどうやらこの政権の存亡にいる非常にキーパーソンになってきたということですね。」と答えていた。

今回は経緯についての報道がメインであり、特に問題は見られなかった。

・文部科学省と前川前次官：結論→問題あり

前文部科学事務次官の前川喜平氏が中学校で公開授業を行ったことについて、自民党議員から文部科学省への

問い合わせを承けて文部科学省が中学校に質問を行ったことについて報じられた。このトピックについてあてられた時間は 539 秒で、経緯の説明、前川氏の発言の紹介、文科省からの応答、教育基本法について、赤池誠章参議院議員について、池田佳隆衆議院議員について、スタジオでの論評といったポイントがあった。それぞれのポイントにスポットのあたった時間配分及び比率は以下の通りであった。



経緯説明では、文科省は問い合わせをしてきた政治が赤池誠章参議院議員と池田佳隆衆議院議員だと明かしたこと、前川氏が授業を行ったのは先月 16 日で翌 17 日に地元紙が記事を掲載されたこと、その記事を見た池田議員からの赤池議員への問題提起を承けて赤池議員は文科省の幹部にショートメールで「国家公務員法違反者が教壇に立ってるのですか、確認をお願いします。」というメッセージを送ったとのこと、18 日に幹部から「対応します」と早く返事が来たこと、その翌日には文科省は名古屋市教育委員会に対して電話で最初の問い合わせを行ったとのこと、その後 15 項目の質問を送ったことが伝えられた。

前川氏については今夜の講演会で語ったとされる「私はあの、こう自主性というもの、主体性というものを育てていくというのが教育であって、こうじゃないといけないって型にはめちゃうのは教育ではない、私はこれを調教と呼ぶべきだと思うんですけどね」という発言や、文科省の対応について「圧力でしょ、それは。文部科学省が自らやろうとしないことをやらせるわけですからね、こういう一方的な政治的な圧力をそのまま現場に伝えるようなことはもう二度とするべきではないと思いますよ」というコメントが紹介された。

文科省の対応については林文科大臣の記者会見の様子が取り上げられ、「赤池議員からはですね、前川市の授業について内容を確認してみてもどうか、というコメントをいただきました。」というコメントや「問い合わせがあったことは事実ですが、それは今回文科省が事実確認を行う必要があると判断したことに影響を与えているものではありません。」というコメントが取り上げられたほか、以下に朱記した記者とのやり取りが取り上げられていた。

林文科相「質問内容について名古屋市教育委員会に送付する直前に池田事務所に情報提供をいたしております、で、池田議員から2点コメントが有りまして、そのコメントも参考にして質問内容を一部修正をしております。」
記者「そもそもなんでその議員さんに見せる必要があったのでしょうか。」

林文科相「はい、それは赤池議員、池田議員からそれぞれ、その先程申し上げた経緯がありますので、丁寧に対応したのだろうということだと思います。」

ナレーション「池田議員の意見を承けて質問を修正したというのです。文科省は先程修正した点を公表、修正後は授業の謝礼や交通費の額を具体的に訪ねていて、授業に動員があったかも書き加えられています。」

教育基本法については、戦後間もなく制定されたものであること、教育は不当な支配に服することなく、国と地方公共団体の適切な役割分担のもとで行わなければならないと定めていること、これは戦中戦前の国家による思想統制が軍国主義につながったことに対する反省を踏まえてのことであることが、伝えられた。また戦時中、「今、国家興亡のこの時、少年兵として召せられることは男子の本懐これに勝るものはありません。」と兵士が発言している1944年時点での映像や軍国主義的思想統制と教育が結び付いている様子の映像が取り上げられていた。

赤池議員については以下に朱記した記者とのやり取りが取り上げられていた。

記者「今回、やはり教育内容にですね、介入しないというその原則がおそらく破られてしまったのではないかと。」

赤池誠章「そういう認識は私は持っておりません。文部科学省が圧力とかですね、またなんですかね、そういうことを感じるということであつたら、これ今回の問題限らず全てそういう話になってしまうことであつて、そうすると我々国会議員が仕事ができなくなってしまう。」

池田議員については以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレーション「自民党の池田義隆衆議院議員、」

池田佳隆(自民党衆議院議員)「我々日本人から自信や誇りを奪ってきた自虐史観の払拭、社会規範を再認識する教育を取り戻さねばならない。」

ナレーション「現在、党の文部科学部会に所属し、部会長の赤池氏を補佐する部会長代理を務めています。政治家になる前は若手経営者らで作る日本青年会議所の会頭。当時から教育に関心を持ち、2006年、教材用アニメを制作していました。その内容は日本は自国を守るためやむを得ず戦争をした、アジアを開放するための戦争だった、などとするもの、当時、池田氏は戦争を肯定美化してはいけない、としながら、”子供たちには客観的な歴史認識を教える必要があると考えています。今の教科書ではその殆どが自虐的すぎる。”この同じ年に対談したのが第一次政権が発足して間もない安倍総理、2012年には自民党の総裁選に挑む安倍陣営の出陣式で」

池田佳隆(2012年自民党総裁選安倍陣営の出陣式での映像)「本物の指導者こそ、私達が敬愛してやまない安倍晋三先生でございます。」

ナレーション「その後の衆院選で初当選し名実ともに安倍チルドレンとなった池田氏。一昨年には学校教育における政治的中立性を確保するプロジェクトチームで座長を務め、中立性を逸脱する事例をインターネット上で募集、現場の教師からは政治的な介入だ、密告させるやり方はおかしい、と批判の声が上がっていました。その池田氏、問題発覚後では地元でのイベントに欠席するなど、公の場に姿を表していません。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返され続けていた。

駒田健吾「赤池議員は今回のことが圧力になるのであれば、国会議員は仕事ができる、と一見もつともらしいことを言っていますよね。」

星浩「果たしてそうでしょうかね、国会議員の仕事はいっぱいありますよね、外交とか財政とか、それから教育の面で言えば教育水準を上げるとかですね、それから教員の人材確保とかいろいろあるわけで、中学校の授業の内容に注文をつけることではないですよ。で、文科省の対応にもし不満があるようなら国会の委員会とかオープンな場でどんどん意見を戦わせればいいと思いますね。で今日ですね、自民党の中ではこんなことを耳にしましたね、その、この2人のような議員の行動に対して注意がされないんだ、党内のそういう風潮も問題だな、というベテラン議員もいましたね。」

今回の報道では池田議員について掘り下げることに多くの時間が割かれたものだった。問題の関係者について深く掘り下げる試みは評価できるものの、問題自体の特殊性や前川喜平前文科事務次官についての掘り下げはやや甘いものだった。今回の報道だけで放送法第四条の観点から判断することは出来ないが、他の放送日に置いて池田議員以外の関係者や問題自体に対してどの程度掘り下げられているかは注目すべきポイントであると言える。スタジオでの論評では明らかに赤池議員の発言に対して反対一色であったが、これは明らかに偏ったものであり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に反していると言える。

確かに、星キャスターのいうように教育面では教育水準の向上や教員の人材確保も確かに国会議員の仕事である。しかし、そうした政策が教育現場で適切に実効を奏しているのか、現場は面従腹背の対応をされていないかなどという点についてはチェックする必要もあるだろうし、場合によっては注文をつける必要もあるはずであり、スタジオでの反対論一色というような簡単な話ではないはずだ。

・中国全人代：結論→問題なし

今回の全人代での憲法改正で2期10年の人気を撤廃し長期政権を可能にした習近平国家主席は閉幕式で権力や憲法は全て人民のためだとアピールしたこと、主要な人事も副主席に盟友の王岐山氏を副首相には経済ブレーンとされる劉鶴氏がつくなど自らに近い人物で硬め権力基盤をより強固にしたこと、王毅外相が外交トップの國務委員に昇格するなど、外交重視の姿勢を強めていて国際社会での中国の存在感を強める狙いがあるとされていることが伝えられた。このトピックについてあてられた時間は72秒で、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

・和田政宗議員の質問：結露→やや不十分

財務省の太田理財局長に対して自民党の和田政宗参院議員が行った「安倍政権を貶めるために意図的に変な答弁をしているんじゃないですか、どうですか」という質問が波紋を呼んでいることが報じられた。この問題を巡って希望の党の大西健介衆院議員が「部下がこういう辱めを受けることに対し私は麻生大臣は組織のトップとし

て抗議をすべきだと思いますが。」という質問を行い、それに対して麻生太郎財務相「少なくともその種のレベルの低い質問というのは、いかななものかとは軽蔑はします。」と答弁しているシーンが取り上げられた。また、他の野党からも「恐喝的な質問で言語道断だ」などと批判が広がっていて、与野党は昨日の和田議員の発言について議事録から削除することで合意したことについて報じられた。この問題についてあてられた時間は73秒だったが、和田議員の質問に対する批判が取り上げられたのみで和田議員による釈明は取り上げられていなかった。トピックの枠が小さかったため仕方のない面もあるのかもしれないが一方的な報道で放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点については不十分なものだった。

・年金再委託問題：結論→問題なし

日本年金機構からおよそ500万人分の個人情報の入力を委託された会社が契約に反して中国の業者に再委託していた問題で加藤厚生労働大臣は年金機構の水島理事長を呼び再発防止に取り組むよう指示したこと、年金機構は委託業者への監督体制などを全面的に見直す方針であることが報じられると共に、日本年金機構の水島藤一郎理事長の「お客様に大変なご心配とご迷惑をおかけしたことに关しまして、心から深くお詫びを申し上げる次第でございます。」というコメントが取り上げられた。またスタジオでは星キャスターが「はい、非常に影響大きいですからね、一つは個人情報が流出していないかどうかチェックする、それから年金ですから支払いに支障が出ないかどうか、厚労省はきちんと責任を持って対応していただきたいですよ。」とコメントしていた。

このトピックについてあてられた時間は53秒で、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・文科省と前川前次官：結論→問題あり

教育基本法について「戦中戦前の国家による思想統制が軍国主義につながったことに対する反省を踏まえてのこと」とナレーションが説明していたが、これについては戦中の範囲にもよるが、映像は1944年と対米戦争での敗色濃厚な時期のものであり、この時期を戦時中と一般化することが適切なのかという問題はある。また、戦前がいつからいつまでを指しているかにもよるが、二次大戦を基準に戦前戦中戦後と分類した場合は明治維新後から1931年の満州事変、1937年の支那事変、1939年のドイツによるポーランド侵攻による第二次大戦勃発、1941年の対米開戦のどこまでとするかでは議論が分かれるところであろうが、戦時中の国民学校などの軍国主義的教育は1941年4月の国民学校令の施行以降の話であり、これらの時代を通じても軍国主義につながる思想統制が一貫して行われていたわけではないことは歴史的にも明らかな事実であり「戦中戦前の国家による思想統制が軍国主義につながった」というのは誤りである。にもかかわらず戦時中それも敗色濃厚な時期での教育の様子の映像を引き合いに「戦中戦前の国家による思想統制が軍国主義につながったことに対する反省を踏まえてのこと」と説明することは、思想統制と軍国主義がつながっていない時代の教育も戦時中と同じような軍国主義につながっていたものだとする誤った印象を抱かせる恐れがある。

検証者所感

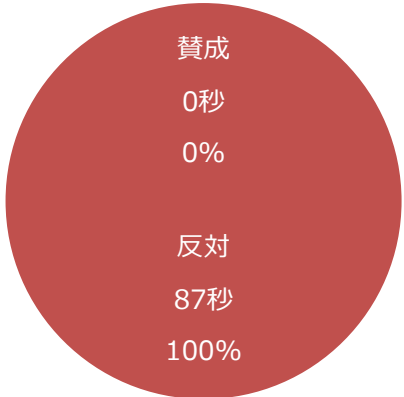
- ・ 森友学園問題

音声データのときもそうだったが、今回のメモについても森友問題で籠池氏サイドの当時の動きについての情報が共産党からでてくる、というのはどういうことなのだろうか、そのカラクリは検証者個人としては気になった。

- ・ 年金再委託問題

強制加入の公的年金であるからこそ、再委託の問題や個人情報の流出の問題は任意加入のサービスよりも深刻であると思う。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送日： 2018年3月21日						
出演者： 星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙								
検証テーマ： 森友問題、前川氏と文科省、米朝首脳会談								
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春の雪 ・ 森友文書 ・ 前川氏授業「問い合わせ」 ・ 平昌五輪 ・ 米朝韓首脳会談 ・ 読み書き障害「ディスレクシア」 ・ プラスチック汚染 ・ テキサス連続爆発事件 ・ 金正男氏暗殺 ・ トヨタ米で自動運転車テスト中断 ・ スポーツ情報 ・ 天気予報 ・ 日本郵政が「不動産会社」設立 								
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨								
<p>・ 森友文書→結論：放送法第4条1項2号に抵触の恐れ</p> <p>森友問題に際して決裁文書に当初ついていたはずの財務省本省との相談メモについての報道。消えたメモは報道内で「幻のメモ」として表現され、そのメモを巡って野党による追及、及び財務省の応答等が紹介された。同報道で政府に肯定的な意見を賛成、否定的な意見を反対として集計したところ以下のようなようになった。</p>								
 <table border="1" data-bbox="289 1407 690 1801"> <tr> <td>賛成</td> <td>0秒</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>反対</td> <td>87秒</td> <td>100%</td> </tr> </table>			賛成	0秒	0%	反対	87秒	100%
賛成	0秒	0%						
反対	87秒	100%						

反対意見の内訳としては立憲民主党の枝野代表が「この問題のキーマンが安倍明恵さんであることは誰がどう見ても間違いありません。後ろめたいことがないならば、さっさと国会に出して証言してもらえばいいじゃないですか。」と明恵氏の証人喚問を要求する演説や、共産党辰巳孝太郎議員による「カッコ書きでこうあるんです。本省相談メモ、法律相談結果等参照。」「それまでは契約そのものは頓挫しかかっていた。しかし(籠池夫妻と)安倍明恵さんの3ショット写真を見せてころっと協力することに替わるわけなんですよ。その部分の相談メモなんですよ。これ非常に大事ですからだして頂きたい。」と財務省を迫及する様子が報道されていた。

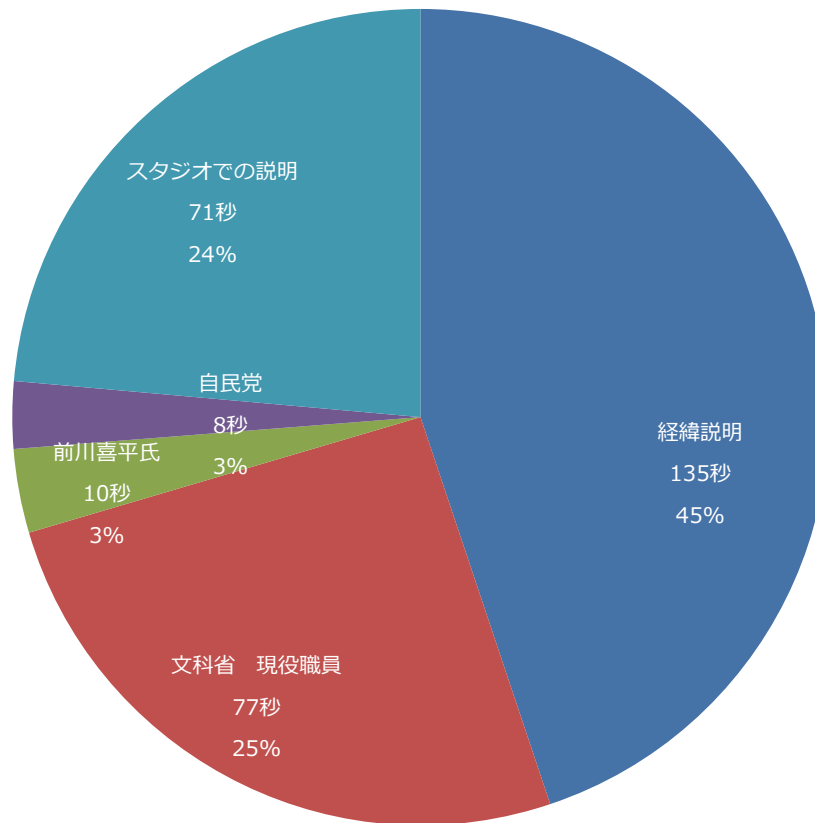
また籠池被告の「(写真を)コピーさせてください。という感じやから、なんでコピーするのかなって思うじゃないですか。コピーせんでもええじゃないの普通。でもコピーさせてほしいということだから、それなりの思いがあったんじゃないか。」という去年5月の証言が紹介されていた。

賛否が分かれなかったシーンとしては太田充理財局長の「近畿財務局に確認をいたしました但至少ともその存在は確認できませんでした。確認できなかったのも更に確認をする作業をしますが」と上記の迫及に対する応答が紹介されていた。なお賛成意見は皆無であった。

上記のグラフの通りほとんどが政府を迫及するシーンのみで占めており、放送法第4条1項2号の「政治的に公平であること」を遵守しているとは言い難い。

- ・前川氏授業「問い合わせ」→結論：放送法第4条1項2号に抵触の恐れ

前川前事務次官が私立中学校で授業を行うことについて文科省が問い合わせを行ったことについての報道。文科省は当初自発的に問い合わせを行ったとしていたものの、実際には自民党文部科学部会長の赤池誠章議員、同代理の池田佳隆議員の問い合わせによるものであったとして報道された。同報道では主に経緯説明、文部省現役職員、前川喜平氏、自民党、スタジオでの説明と5つに分類できた。以下がその時間及び比率である。



経緯説明としては前川氏の授業について文科省が名古屋市の中学校に問い合わせをしていた問題で担当者が当初、記者に対して事実と異なる説明をしていたということ、また池田議員の動向なども紹介された。

文科省現役職員の証言としては、

ナレ：赤池議員は文科省の幹部にメールを送ったのです。翌日、幹部はこう回答。

ナレ：対応します。

ナレ：しかし文科省は学校側に問い合わせたのはあくまで文科省の主体的な判断との立場を強調しています。一方複数の現役の職員からは疑問の声が聞こえてきます。

といった赤池議員と文科省幹部とのやり取りの紹介に続く形で「(議員からの問い合わせは)影響しているはず。特に赤池さんは文部科学部会の部会長ですから。機嫌を損ねると文科省のあらゆる案件の与党審査が滞ることになります。」といった発言や、「赤池さんの問い合わせには特段気を配るよう言われている。自民党の部会長だし通したい法案の決裁権を握られている。」との不満を示すような発言があったとして紹介された。

前川喜平氏の発言としては「何の権限もない人が文科省の役人に対して「この中学校で何をやってるか調べろ。」と言って、これは不当な支配。」と池田、赤池両議員を批判していた。

自民党議員の発言としては赤池議員の「国家公務員法違反者が教壇に立てるのですか？確認をお願いします。」と文科省の問い合わせについて内容についての発言があった。

スタジオの説明としては星浩の「先日、霞が関の事務次官 OB が 10 人ぐらいいる会合で話をする機会があったんですが、みんな今の一連の原因は、やはり何といても役所の幹部の人事権を官邸に握られているからだ、口をそろえて、私もちょっと驚きました。森友問題にも通づるものがあるという意見でしたね。」と文科省 OB との会合で得た情報を話していた。また報道の最後では「ですから官邸の意向に背いたり官邸に非常に近い自民党議員ににらまれたりするというのは出世に響くと官僚の人達が考えているというのは当然なんですね、今。しかし、官僚はもともと国民全体の奉仕者だということですし、それから政治家の方も官僚に理不尽な圧力をかけるというのは論外だと思います。それと、官邸が人事権をこれだけ強く握り続けるのははたしていいのかどうか、そろそろ見直しをしても良いかなという気もしますね。」と官邸が官僚の人事権を握っていることについて疑問を呈していた。

肯定的な意見として集計できたのは上記の赤池氏による「国家公務員法違反者が教壇に立てるのですか？確認をお願いします。」の発言のみであり、大半が否定的な意見で占められていた。また文科省職員の不満を表す発言や星浩氏の官邸主導を批判する発言など官僚を被害者として擁護するような意見が見られた。以上を考慮すると放送法第 4 条第 1 項 2 号の「政治的に公平であること」に抵触する恐れがあると考える。

・米朝韓首脳会談→結論：特に問題なし

5 月末までに行われる予定の米朝首脳会談についての報道。北欧フィンランドで行われたアメリカ、韓国、北朝鮮の 3 か国による非公式会合が行われ、北朝鮮からは対米政策を担当するチェ・ガンイル北米局副局長が出席した。会合を受けて文在演大統領は「場合によっては米朝韓の 3 か国首脳会談につながることもありえます。」と南北首脳会談に向けた政府準備委員会の席で述べた。また 2016 年以来見送られてきた日中韓サミットについても報道され東京都で開催される予定で調整されていることが報道された。なお今報道では賛否が分かれる点は見当たらなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・森友文書→結論：印象操作の疑いあり

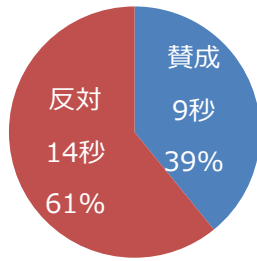
報道の終盤で「祝日にも関わらず、今夜も財務省には灯りが・・・来週火曜日の佐川氏の証人喚問を前に疑念が膨らみ続けています。」とのナレーションがあった。後の前川氏の授業に対する問い合わせについての報道における官邸主導への批判と併せて、官邸が官僚に対して不当な圧力を与えているような印象を与えかねず、また官僚への同情を誘うような編集でもあり、印象操作の疑いがあると判断する。

検証者所感

スタジオ内で雨宮キャスターが「それにしても官僚が自民党議員に完全に牛耳られているといった印象ですね。」といった発言をしていたが、報道を見る限りではまさしくその通りの印象を受け取らざるを得ない報道であった。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月22日
出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙		
検証テーマ：自民党憲法9条改憲案、国際特許出願ランキング、森友文書問題、「授業介入」問題の議員が初コメント		
報道トピック一覧		
<ul style="list-style-type: none"> ・奥多摩で登山客13人救助 ・自民党憲法9条改憲案 細田氏に一任へ ・国際特許出願ランキング 中国が2位 ・森友文書問題 ・追跡特集・「民進」「希望」合流の裏側 ・「授業介入」問題の議員が初コメント ・子どもの飛び出し 小1が危険率最高 ・川崎市老人ホーム転落死事件 容疑者に死刑判決 ・川口市いじめ問題 被害者の母親が市を相手に起訴 ・李明博元大統領逮捕 ・プラスチックゴミが海産物から人体へ ・スポーツ報道 ・天気予報 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<p>・自民党憲法9条改憲案→結論：放送法第四条第二項（政治的に公平であること）に抵触する可能性あり。</p> <p>自民党の憲法改正推進本部において自民党の改憲草案が話し合われたことが報道された。改憲案の決着は会議では結論が出ず、細田氏に一任されることが決定した。しかし、自民党内部には不満を抱えるグループが存在しており、その代表的な人物として石破氏が紹介された。石破氏は「何が一任されたか判らないまま一任だったという、非常に自民党の意思決定のあり方としては私の知る限り極めて異例なものだったなど。」とコメントしていた。また、スタジオにおいては星氏が、今月の25日には党大会がありますので、そこで方針だけは打ち出しておきたいという細田さんの意向もあってバタバタと決まったんですね。しかし、党内で色々議論があって、簡単に憲法改正案が決まるというわけにはいかないみたいですね。さらに、連立を組んでいる公明党も9条改正には反対ですし、野党は改正論議自体に反対ということなんですね。さらに党内には森友問題もありまして、憲法改正どころではないという意見もありまして、憲法改正はそう簡単にはいかないところですね。」と細田氏の狙いと今後の憲法改正の流れの予測をコメントした。</p> <p>今回のトピックにおいては賛否の時間計測を行った。細田氏のコメントを賛成、石破氏のコメントを反対として時間計測した結果は下図の通り。</p>		

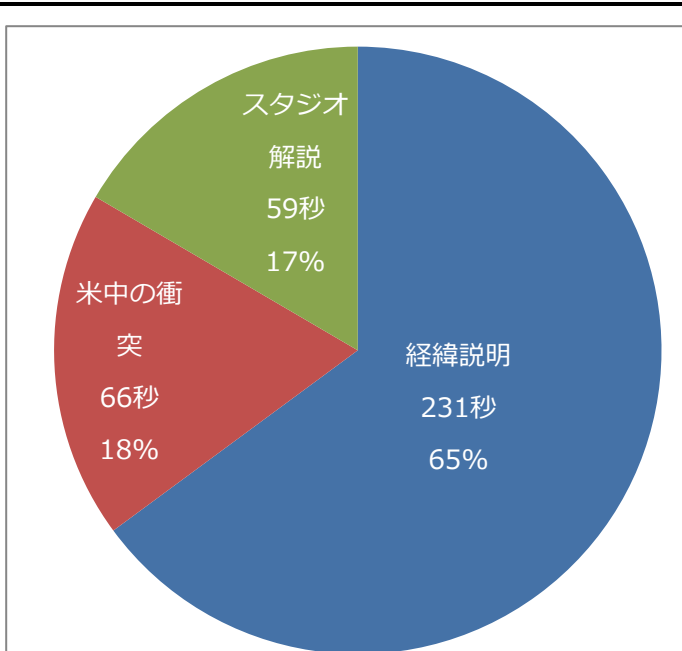


時間計測の結果、反対が6割という結果になった。これは時間配分として偏りがあると言わざるを得ない。これは放送法第四条第二項に抵触する可能性があると考えられる。

・国際特許出願ランキング→結果：問題なし。

2017年の国際特許出願数ランキングにおいて中国が日本を抜いて2位になったことが報道された。中国の特許出願数が増えた背景として国が積極的に特許出願の推進を行っていることが挙げられ、李克強首相が「我が国は科学技術革新において多くの分野で、他国を追走する立場から並走あるいは先頭を走るようになった。」とコメントする様子が報道された。今後の流れとして元特許庁長官の荒井寿光氏が「ちょうど今まで中国がアメリカの特許を使わないと駄目だった。日本の特許を使わないと駄目だったということが逆転するんです。今度は中国の特許を使わないと不便になりますよ、という分水嶺。」と述べた。また、この流れにアメリカのトランプ大統領が知的財産権を侵害されているとして中国に関税をかけることが発表された。ライトハザーアメリカ通商部代表の「アメリカ経済がもっとも強みとしている知的財産を侵害されているのは実に深刻な問題だ。」というコメントや中国外務省報道官の「中国は合法的権益が侵害されるのを決して座視できない。あらゆる必要な措置を講じて権益を守る。」という発言があり、今後米中の経済的な衝突になりかねないことが伝えられた。最後にスタジオのコメントとして星氏が「特許を沢山出願できるということはそれだけ技術水準が上がっているということですよ。中国の経済が量から質に転換しているということの表れだと思います。これまでの世界の工場という水準からアメリカに比肩するところまで来ていますけれども、日本の政府関係者によりますと中国は国を挙げて技術開発に取り組んでいるので進展が早いと述べています。」「今度はおそらく中国が対抗措置をとって、貿易戦争というところまで発展しかねないんですけども、今本当はWTO世界貿易機関のような多国籍の関係で議論しようという流れになっているんですが、そういう動きから外れつつあるんです。だから、日本はWTOで議論しましょうという原則を伝えるべきかもしれませんね。」とあった。

今回は賛否の別れる内容ではなかったため賛否の時間計測は行わなかった。トピックを「経緯説明」「米中の衝突」「スタジオ解説」の3つに分けて各時間計測を行った。結果は下図の通り。

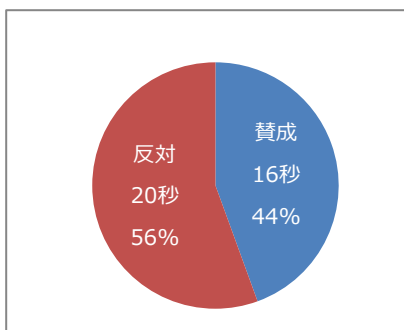


本トピックにおいては問題は見られなかった。

- ・森友文書問題→結論：問題なし。

森友文書に関する問題で国会論戦の様子が報道された。今回の議題は文書を「書き換え」と表現するか、「改ざん」と表現するかという内容であった。太田理財局長は「広辞苑を調べてお答えするのが私ごときではそれくらいしか能力ないなと思ってお答え申し上げます。広辞苑を拝見すると『書き換え』とは書き改めることと書いてあります。ある意味で中立な言葉という感じだと思います。」と述べ、今後も「書き換え」と表現する意志を表明した。また、野党が籠池被告と接見する予定があることが伝えられた。接見予定の今井議員はその目的として「証人喚問以降、新しい事実関係が出てきているので、改めて政治家、昭恵夫人の関与について籠池氏から話を伺いたい。」とコメントした。また、野党の狙いとして安倍昭恵夫人の証人喚問を求めていることが伝えられた。立憲民主党の辻元議員は「なぜこの1年この問題がくすぶり続けてきたのか。それは『ある方』が証言に立たないからじゃないですか。」と述べ、昭恵夫人の証人喚問を求めている。それに対し、与党は昭恵夫人の証人喚問は認めない方針を明らかにした。

本トピックにおいては国会論争について太田理財局長の立場を賛成、表現を問題視する野党議員の発言を反対として時間計測を行った。

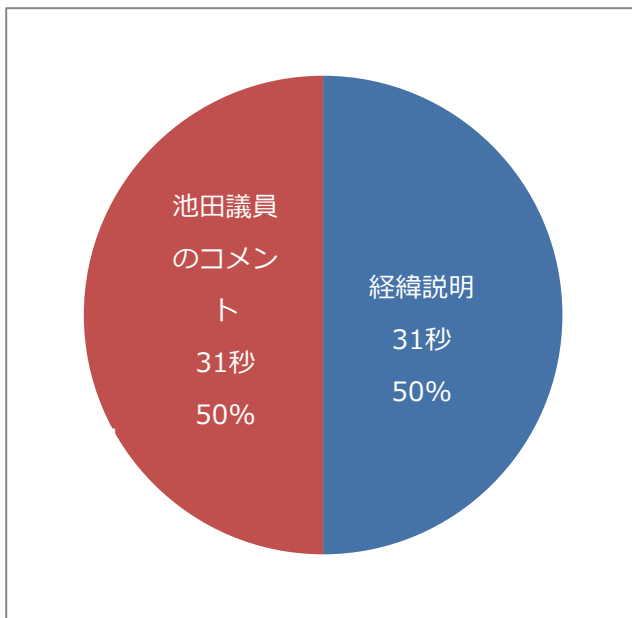


反対の時間配分が賛成に比べて多い比率だが、概ね問題になるほどではないと判断される。トピック全体に占める割合もそれほど大きい時間ではないため、問題なしと判断した。

・「授業介入」問題の議員が初コメント→結論：問題なし。

元文科省事務次官の前川喜平氏が公立学校で行った授業に対して文科省が問い合わせをした問題について文科省に質問を行った池田佳隆議員が初めて公の場に姿を現し、コメントを行ったことが報道された。池田議員は記者の質問には答えなかったが、「法令に準拠した授業であったのかどうか。地元の皆様方からの懸念があればその大切な声を国にしっかりとお届けすること。」とコメントを残した。

本トピックは極めて短い時間の報道であったため、賛否の別れる内容ではなかった。したがって賛否に関する時間計測は行わなかった。本トピックは「経緯説明」と「池田議員のコメント」に分けられ、各時間の時間計測を行った。結果は下図の通り。

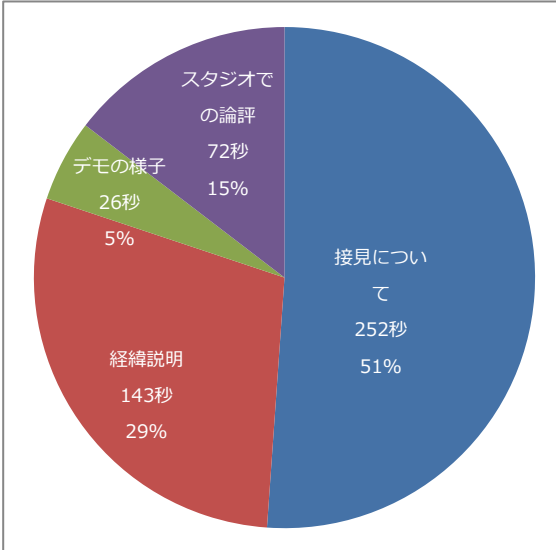


極めて公平な時間配分として評価できる。問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし。

検証者所感
特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月23日															
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙																	
検証テーマ：森友学園、トランプ大統領、年金再委託問題、裁量労働制																	
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題 ・【速報】フランス南部でテロ、犯人はイスラム国を叫んでいた模様 ・トランプ大統領 ・都心の桜、明日満開 ・【現場から、海を殺すな】バリ島の海岸とプラスチックゴミ ・【独自】年金再委託問題 ・裁量労働制 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・アカデミー賞の辻さん、日本でも表彰 																	
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題：結論→直ちに問題とは指摘できず <p>希望の党の今井雅人衆院議員、共産党の宮本岳志衆院議員、立憲民主党の議員一人、計三名の野党議員が大阪拘置所に訪れ森友学園の前理事長籠池氏に接見したことが報じられた。このトピックにあてられた時間は秒で、主に接見を行った野党議員が記者の質問に対して答えていくシーンと、森友学園問題のこれまでの経緯を振り返るナレーションによる説明、デモの様子、スタジオでの論評のポイントに大別される報じ方だった。それぞれのポイントにスポットのあたった時間配分及び比率は以下の通りであった。</p>																	
 <table border="1"> <caption>接見についてに関する時間配分</caption> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>接見について</td> <td>252</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>スタジオでの論評</td> <td>72</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>経緯説明</td> <td>143</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>デモの様子</td> <td>26</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>			内容	時間 (秒)	比率 (%)	接見について	252	51%	スタジオでの論評	72	15%	経緯説明	143	29%	デモの様子	26	5%
内容	時間 (秒)	比率 (%)															
接見について	252	51%															
スタジオでの論評	72	15%															
経緯説明	143	29%															
デモの様子	26	5%															
<p>接見については、記者に対応する主にシーンが取り上げられていた。そのシーンで繰り返されたやり取りを</p>																	

以下に朱記する。なお、このシーンの中で一部経緯説明として計測した箇所が含まれているがその箇所については朱記ではなく黒字で記入した。

ナレーション「森友学園の問題に安倍昭恵夫人の関与はあったのか今日、前理事長の籠池被告と席卷した野党議員はその直後こう手応えを口にしました。」

今井雅人(希望の党衆院議員)「籠池さんの仰っていることが事実だとすれば安倍昭恵さんにはこの取引のことはずっと報告が言っていてご存知だったのではないのかな、ということを感じました。」

ナレーション「45分に及んだという接見。籠池被告が昭恵夫人について重要な証言をしたというのです。今日、夕方大阪国うち所に到着した野党議員。」

中継「いま、野党議員が到着しました。立憲民主党、共産党、希望の党の三人がいま、拘置所に到着しました。」

ナレーション「八ヶ月前に逮捕された籠池被告はここ大阪拘置所に拘留されています。」

ナレーション「一年前の今日、籠池被告は国会の証人喚問に臨んでいました。」

籠池(去年2月23日の映像)「事実は小説よりも奇なりであります、私が申し上げていることが正しゅうございます。」

ナレーション「繰り返し語ったのは安倍昭恵総理夫人との関係です。」

籠池(去年2月23日の映像)「どうぞ、安倍晋三からです、というふうに仰って寄付金として封筒に入った100万円をくださいました。」

ナレーション「その後、逮捕された籠池被告、弁護士以外との接見が許されるのは今回はじめてのことでした。」

今井雅人「ちょっとやっぱり寒くて少ししもやけが出来ている感じでしたけどお元気そうでした。」

ナレーション「籠池被告はガウンのようなものを来て髪型は逮捕前と同じ七三分けだったと言います。」

ナレーション「話題の中心となったのは昭恵夫人や夫人つき職員だった谷査恵子氏の関与でした。」

今井雅人「逐一、安倍昭恵さんに、毎回じゃないんですけども何回か纏めて、こういう状況になっています、ということを報告していた、都度都度、谷さんなり、安倍昭恵さんにお伝えしていた、と。だとすれば全くそんなことは知らないとか関わっていないというのは、安倍総理の言うことは間違いということになるでしょうね。」

ナレーション「野党側が特に注目していたのが改竄前の文書にあった昭恵夫人に関する記述。2014年、籠池被告が昭恵夫人を小学校の建設予定地に案内した際に、昭恵夫人からこう言われたというのです。」

音声「いい土地ですから前に進めてください。」

ナレーション「然し、安倍総理は」

安倍総理(14日「妻に確認をいたしました。そのようなことは申し上げていないということでした。」

ナレーション「こう、明確に否定。」

ナレーション「野党は今日、この点を籠池被告自身に確かめたというのです。」

今井雅人「いい土地ですから決裁書にありましたけど確かにそういうふうに仰っていた、と。ということでそれは間違いはないというふうに仰っていました。」

記者「籠池さん自身がある感じでしたか？」

今井雅人「ありましたよ」

記者「語気は強かったですか」

今井雅人「強かったです。間違いなく言っていました。」

ナレーション「しかし、去年の証人喚問で籠池被告は建設予定地でのやり取りについて少し違った説明をしていました。」

籠池「いい田んぼができそうですね、ということが有りましたので、そのお言葉を頂いて瑞穂の国、というふうにさせていただきました。」

ナレーション「学校の建設に良い土地ではなく田んぼに良い土地だと言われたとしていたのです。」

ナレーション「この食い違いについて今日、籠池氏は」

今井雅人「両方言われているということです、話の流れの中でいい田んぼになりそうですね、っていうふうに昭恵さんが言ったら、いやいやここは学校を作る土地、建設予定地ですから、っていう話をしたら、ああそれはいい土地ですね、ぜひ前に進めてください、ってそのような流れの会話だったって」

ナレーション「もう一つ野党が目撃していたのは敷地から大量のゴミが見つかったとして森友学園側が財務省に国有地の大幅値引きを迫った際のやり取りです。」

籠池(音声提供は共産党)「棟上げ、棟上げのときに首相夫人こられることになってる、どうするの僕の顔は」

弁護士(音声提供は共産党)「もう、死ぬ気でその値段を下げるってところに取り組んでほしい」

ナレーション「籠池被告は昭恵夫人が棟上げ式に来ることを交渉のカードに使っていたのです。然し、安倍総理は」

安倍総理(今年2月の映像)「そもそも、招待を受けていませんし、招待状も頂いておりませんし、いく予定も最初からなかったということははっきりと申し上げておきたいと思います。」

ナレーション「今日、籠池被告は」

今井雅人「棟上げ式には必ず行きますからね、というような話を安倍昭恵さんから頂いていたと言うような話は安倍昭恵さんから頂いていたというような話はされていまして。」

ナレーション「昭恵夫人から棟上げ式にかならず行くと言われたというのです。」

今井雅人「口頭でお伝えしてちゃんと正式に招待状を送る準備をしなければいけないって準備をしていたらしいんですけども結局送っていないって仰っていました。」

ナレーション「来週、火曜日の佐川氏の証人喚問に向けて収穫もあったようです。」

宮本岳志「まあそれは証人喚問をお楽しみに、していただいて、私達もそのための接見をしたわけですから。」

記者「まあ隠し玉と言うか、当然、今言っていないこともあるという理解でよろしいんですか。」

今井雅人「それはあります。」

ナレーション「証人喚問に向けた隠し玉があるとしました。」

経緯説明は主に野党議員の記者への対応の際に補足での過去の質疑の映像の紹介やナレーションによる説明が行われたものだった。

デモの様子については拘置所前での集会と官邸前でのデモの様子が取り上げられていた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

雨宮塔子「週明けの火曜日には佐川前長官の証人喚問が行われます。そして、今日の接見ですが星さん野党は収穫がありそうな様子でしたね。」

星浩「そうですね、籠池被告の発言と安倍総理が国会で説明している発言とは食い違いがありますからね。そのへんははっきりしてきていると思います。さて来週の佐川さんの関門ですがポイントは2つあると思います、ま

「ずどんな目的で改竄を指示したのかですね、もう一つは誰かに支持されたかどうかですね、それから相談したのかどうか、それからそこに安倍総理の側近が絡んでくるのかどうか、その辺なども大きなポイントとだと思えますね。」

駒田健吾「そして佐川氏はどんな証言をするのでしょうか。」

星浩「議院証言法では刑事訴追を受ける可能性がある場合は証言を拒否できる事になっていますので、佐川さんももしかしたらその部分、証言を拒否する可能性はありますよね。ただまあ佐川さんは36年間国家公務員として働いたわけですからね、そのプライドにかけてですね、きちんとその事実を国民の前に明らかにしてもらいたいと思いますね。」

今回は国会質疑ではなく野党の動きが中心に取り上げられたものだった。そのため野党にスポットのあたった報道であったが対象が対象であることから、これでもって直ちに放送法第四条の点から問題であるというようなものでもないと考えられる。

・トランプ大統領：特に問題なし

トランプ政権は鉄鋼製品などへの輸入制限を発動し、さらに中国からの輸入品に高い関税をかけると表明し米中貿易戦争の懸念が高まっていること、人事ではマクマスター補佐官の解任を明らかにしたこと、が報じられた。また、輸入制限について日本は制限除外のリストに含まれていないこと、今回の措置に世耕経済産業大臣は懸念を示した上で、引き続きアメリカに対して日本を除外するように働きかけていくと話したことが報じられた。人事についてはマクマスター補佐官の後任の安全保障担当の補佐官にはジョン・ボルドン氏が当てられるとトランプ大統領がTwitterで宣言したことが報じられ、この人事について早稲田大学教授でアメリカ政治を専門とする中林美恵子教授の「マクマスターさん自身がウマも合わなくなってきた、まず自分の直感があって、そしてそれに突き進むために異を唱えるような部下はもう必要ない、と、中間選挙を目指して自分の陣容を整えている」という見立てが紹介された。なおジョン・ボルドン氏についてはその人物についてナレーションによって「ブッシュ政権で国連大使を務めたジョン・ボルドン氏はイラク戦争を押し進めたネオコン、新保守主義の一人として有名な人物です。」と説明された。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返り広げられていた。

駒田健吾「タカ派のジョン・ボルドン氏、北朝鮮への強硬路線が際立っていますよね。星さん」

星浩「そうですね、米朝首脳会談があればトランプさんの隣に座る人物ですから中々鍵を握っていますよね、日本としては拉致問題とか核ミサイル問題で本当はアメリカと連携したいんですけども最近は韓国主導で進んでしまっていますので若干取り残され気味ですよ。」

駒田健吾「そしてボルドン氏は実は日本に意外な人脈があって・」

星浩「そうなんです、そういう段階で実は日本には一つキーパーソン天野之弥さんというIAEAの事務局長をされているんですね、実はボルトンさんと非常に親密で連携を取りやすいんですね。日本政府としては今度天野さんを通じてですね、拉致、核ミサイルについてアメリカにいろんな注文をつけていくということが可能になればと思っているんですね。」

このトピックにあてられた時間は385秒だった。日本では決して広く知られている言葉ではないと考えられる「ネオコン」や「新保守主義」という言葉についての補足説明が殆どないという点については事実を正しく伝え

るという点では些かの不親切さがあるが、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

・年金再委託問題：結論→特に問題なし

年金情報の入力業務が中国の業者に再委託されていた疑いについて、委託された業者で働いていた男性の証言がインタビュー形式で取り上げられていた。インタビューの様子は以下に朱記したとおりである。

「SAY 企画」で働いていた男性「杜撰だなと。そのへんにダンボールいっぱい置いてあって、いつでも持っていきけるっていうのはいいの？」

ナレーション「こう話すのは日本年金機構から個人情報の入力を委託された情報処理会社 SAY 企画で働いていた男性です。SAY 企画は契約に違反し、一部の業務を中国に再委託をしていた他、およそ 86 万人分の入力ミスがあったことが明らかになっています。」

「SAY 企画」で働いていた男性「夜間に社員がおらず、アルバイトだけでマイナンバーですね、それを作業させているということはちょっとびっくりしました。」

ナレーション「年金情報の入ったダンボールは施錠もされず誰でも出入りできる場所に置かれていたと言います。ある時こんな騒動もあったと言います。」

「SAY 企画」で働いていた男性「4 箱なくて、みんなで探してくれて言われて、それでみんなで探し回って結局あったんですね、そういう事が起きているっていう事自体が不安。」

また、年金機構は実態解明を進めているとのことも報じられた。

このトピックについてあてられた時間は 93 秒で、今回は放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

・裁量労働制：結論→特に問題なし

裁量労働制ではたらく人の労働時間について厚生労働省が不適切なデータを纏めていた問題で加藤厚生労働大臣は今日、裁量労働制に関するデータを全て撤回すると言ったこと、これまで安倍総理は不適切な調査データに基づいた答弁を撤回し謝罪したが、データ自体については精査するなどとしていたこと、厚労省は今後裁量労働制について調査をやり直すとしていることが報じられた。このトピックについてあてられた時間は 32 秒で、今回は放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・トランプ大統領：結論→一部不親切なシーンあり

「保守」という言葉で呼ばれる政治勢力の政策的な志向性や政治的選好は国によって大きく異なるように、「新保守」や「ネオコン」という言葉も、アメリカのそれと日本のそれとは指している内容や実態が大きく異なる。しかし、十分な補足説明なしにこうした言葉を用いることで、アメリカで「ネオコン」や「新保守主義」と呼ばれている人と日本で「ネオコン」あるいは「新保守主義」と呼ばれている人たちが同じようなものであるという誤った印象を抱かせてしまう恐れがある。視聴者を実態と大きく乖離した認識へとミスリードしないためにも、こうした言葉を用いる場合はやはり丁寧な補足説明が求められるのではないだろうか。

検証者所感

・森友学園問題

昭恵夫人が言ったとされる「いい土地ですから前に進めてください。」という発言についてであるが、証人喚問での籠池氏の証言にあるように「いい田んぼができそうですね、ということが有りましたので、そのお言葉を頂いて瑞穂の国、というふうにさしていただきました。」ということであるから、今井雅人氏の「両方言われているということです、話の流れの中でいい田んぼになりそうですね、っていうふうに昭恵さんが言ったら、いやいやここは学校を作る土地、建設予定地ですから、っていう話をしたら、ああそれはいい土地ですね、ぜひ前に進めてください、ってそのような流れの会話だったって」という説明で、昭恵夫人の強い意向があったか、というのはどうしても考えにくいように感じられた。「いい田んぼができそうですね」という発言をした時点で昭恵夫人は籠池氏の学校を作りたいということを知っていたのかは今回の報道からは分からないが、もし知らないとすれば「ぜひ、前に進めてください」という発言も社交辞令の域を出ないものであるだろうし、仮に籠池氏の学校を作りたいという思いを知っていた上で昭恵夫人が「いい田んぼができそうですね」と言ったのであれば、そもそも会話が成立していなかったのではないだろうか。